【小学生高学年礼拝コンテンツ】

創造原理②授受作用｜ために生きる人になろう

　今回は、「為に生きる人になろう」という題目で、「授受作用」について学んでいきたいと思います。

　皆さん、漢字は得意ですか？授受作用の「授」は授ける、つまり「与える」という意味です。授受作用の「受」は受ける、という意味ですね。

　つまり、「与えて、受ける」ことを、「授受作用」といいます。

　ここで、簡単な例え話をします。2人の男の人がいました。山男さんと海男さんです。2人は友達同士です。山男さんは海男さんに鶏の卵をあげました。海男さんはとても喜び、「どうもありがとう！」と感謝しました。そして感謝の気持ちを伝えるために、山男さんに海で採れた魚をあげました。

　山男さんは魚を受け取って、「こんなに喜んでもらえるなんて！」とうれしくなり、また何かあげたい気持ちになりました。そして、今度は豚をあげました。海男さんはまた喜び、今度は獲れたてのマグロを山男さんにあげました。

　そして、感謝の気持ちでいっぱいになった山男さんは、また何かあげようと思い、最後には大きな象をあげたのです。こうして、2人の絆はさらに強くなりました。

　このように、良い授受作用というのは、「もっとあげたい！」という気持ちに発展していきます。

　しかし、最初に卵をあげた時に、もし、何も感謝の気持ちが返ってこなかったら、「もっとあげたい！」という気持ちにはなれません。2人の間の授受作用は、そこでおしまいです。

　授受作用が行われると、大きな力が生まれます。この授受作用によって、山男さんと海男さんの間の絆はより強くなりました。

　人間だけでなく、世界のすべてのものをくわしく見てみると、たくさんの授受作用をみつけることができます。

例えば、皆さんは雷がなぜおこるのか、学校で習いましたか？雷はなぜおこるのかというと、雲にプラスの電気がだんだん増えていきます。地上にはマイナスの電気がたまってきて、雲の中にこれ以上入ることができなくなった時に、プラスの電気がマイナスの方に走り、マイナスの電気がプラスの方に走り、その瞬間電気がスパークして、雷が起こります。その時の威力は、私たちも吹っ飛びそうなくらい、凄まじいものです。実はこの時に、プラスの電気とマイナスの電気が授受作用を行っているのです。ほかにも、大自然の中には、たくさんの授受作用があります。なので、自然界はとても美しいのです。

　雷の話でわかるように、ある２つのものが授受作用、つまり授け受けするときに、神様からのエネルギーがドーンと降りてきて、大きな力を生み出します。神様を中心として授受作用するときに、無限の力がわいてくるのです。

　私たちは普段の生活の中でも、家族や友達とたくさんの授受作用をしていると思います。普段の生活の中で、「良い」授受作用をするためには、何を心がけたら良いと思いますか？

それは、「良く」授け、「良く」受けることです。この「良く」というのは、「相手のためを思ってする」ということです。山男さんと海男さんの例でも、もし海男さんが卵アレルギーだったとしたら、山男さんは卵ではなく、果実など、別のものをあげたほうがいいですね。

　このように、周りの家族や友達とも、「お父さん・お母さんは何をしてあげたら喜ぶかな」「〇〇くんは電車が好きだから、今度電車の話しをしてみよう」など、相手の気持ちになって、授受作用を行ってみてください。

　今回は、「為に生きる人になろう」という題目で、「授受作用」について学んできました。与えて受けることを、授受作用と言うこと。自然の中にも色々な授受作用の関係がある事。相手の気持ちになって良い授受作用をすることが大切だということを学んできました。

　毎日、神様が喜ばれる「良い」授受作用をすることができたなら、どんなに楽しい生活ができるかわかりません。みなさんも、家族や友達との間で、相手のことを思って、相手のために何かすることができたら、素晴らしいですね。そのためにも、「良く」授け、「良く」受ける、「良い」授受作用を心がけて生活していきましょう！